

事業報告

研究支援事業 学術集会の開催 学術集会

第77回日本血液学会学術集会 プログラム概要

会期：平成27(2015)年10月16日(金)～18日(日)(3日間)

会場：石川県律音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ホテル日航金沢、ホテル金沢、
金沢市アートホール、もてなしドーム

会長：中尾 眞二(金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学(血液・呼吸器内科) 教授)

メインテーマ：Learning human biology from patients

参加者数：5,769名

プログラム

- 会長講演 1題
- 特別講演 3題 (Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture)
- JSH 学会賞受賞講演 1題
- 教育講演 53演題 (うち32演題を再演)
- シンポジウム 10テーマ (49題)
(Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium を含む)
- パネルディスカッション 1テーマ (7題) (Asian Joint Panel Discussion)
- プレナリー 6題
- 一般口演 590題 (内4題、演題取り下げ)
- 一般ポスター 712題 (内12題、演題取り下げ)
- 誌上発表 38題
- Meet the Expert 4テーマ
- SETP (Scientific Exchange Training Program) 4テーマ (8題)
- コーポレートセミナー 47セミナー (55題)
- 公開シンポジウム
- 造血器腫瘍ガイドライン委員会セミナー

国際

・第7回国際シンポジウム (The 7th JSH International Symposium in Awaji)

会長 谷本光音

日時 2015年5月13日(金)～14日(土)

会場 淡路夢舞台国際会議場 (兵庫県淡路市)

テーマ Advances in Immunotherapy for Hematological Malignancies

・第77回日本血液学会学術集会における EHA /ASH Special Lecture /JSH-ASH Joint Symposium /EHA-JSH Joint Symposium /Asian Joint Session

ASH Special Lecture

David A. Williams “Stem cell gene therapy for monogenic diseases”

JSH-ASH Joint Symposium

〈Donor selection in hematopoietic stem cell transplantation: haplo versus cord blood〉

Ephraim Fuchs “HLA-haploidentical stem cell transplantation with high dose, post-transplantation cyclophosphamide: the USA experience”

Claudio Brunstein “Cord blood as a donor type for allogeneic transplantation: past, present & future”

Naoyuki Uchida “Cord blood transplantation in Japan”

Hirohisa Nakamae “HLA haplo-identical allogeneic hematopoietic cell transplantation using reduced dose post-transplantation cyclophosphamide (PT/Cy)”

EHA Special Lecture

Tony Green “Molecular pathogenesis of myeloproliferative neoplasms”

JSH-EHA Joint Symposium <Basics and clinic of DIC>

Marcel Levi “Basics and clinic of DIC associated with sepsis”

Cheng-Hock Toh “New considerations in diagnosing and treating DIC”

Hidesaku Asakura “Classifying types of DIC: clinical and animal models”

Takashi Ito “Protective roles of thrombomodulin in nuclear DAMPs-associated thrombosis”

Asian Joint Panel Discussion <Lymphoid malignancies including multiple myeloma>

Taiwan: Hsiu-Hsia Lin

“The role of decorin in the bone marrow stroma of patients with multiple myeloma”

Thailand: Archrob Khuhapinant

“Thai Lymphoma Study Group (TLSG): A first nation-wide multi-institute collaborative group contributing to deeper malignant lymphoma study in Thailand”

China: Jin Lu “Multiple myeloma in China”

Korea: Je-Jung Lee

“Cellular immunotherapy using dendritic cells against multiple myeloma: from bench to clinic”

India: Tapan Saikia

“The role of adjuvant radiation therapy in advanced Hodgkin lymphoma: is it settled and how is it practiced in Asia?”

Singapore: Wee Joo Chng “Clinical utility of genomics in myeloma”

Japan: Ritsuro Suzuki

“Treatment of extranodal NK/T-cell lymphoma: a paradigm shift from CHOP to SMILE/CCRT”

• **21th EHA Congress in Copenhagen** における EHA-JSH Joint Symposium

“Mechanisms underlying immune selection of PIGA-mutant hematopoietic stem/progenitor cells in patients with bone marrow failure”

Shinji Nakao (Kanazawa University, Japan)

“Impact of ethnic background on the characteristics and clinical course of chronic lymphocytic leukemia in Japan and Central Europe”

Ulrich Jäger (Vienna University, Austria)

• **若手研究者への21th EHA Congress Travel Award 支援**

演題が採択された以下の5名にトラベルアワードとして20万円を本学会より補助。

藤 重夫 (国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科)

Pretransplant Mogamulizumab against ATLL was associated with significantly increased risks of severe/steroid-refractory GVHD, non-relapse mortality and overall mortality

前田卓也 (京都大学医学部附属病院 血液腫瘍内科)

Regeneration of WT1 specific CTLs utilizing iPSC technology

谷崎祐太 (早稲田大学教育・総合学術院 教育・理・生物)

Acquisition of hematopoietic capacity in frog bone marrow

垣内誠司 (神戸大学医学部 腫瘍・血液内科)

NANOG expression as a responsive biomarker during treatment with Hedgehog signal inhibitor in acute myeloid leukemia

濱中有理 (大阪大学 血液・腫瘍内科)

Anamorsin is essential for B cell terminal differentiation

• **EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2016**

日本からヨーロッパへの派遣者には100万円を本学会より補助。

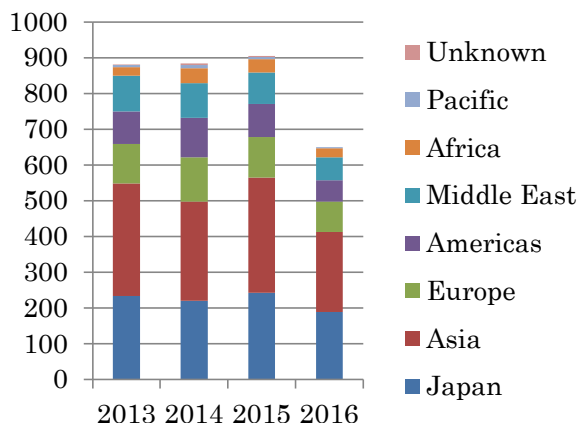
(JSH) 角南義孝 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 血液内科)

派遣先: Genetics of Hematological Disorders, Research Center for Molecular Medicine of the Austrian Academy of Science (Austria)

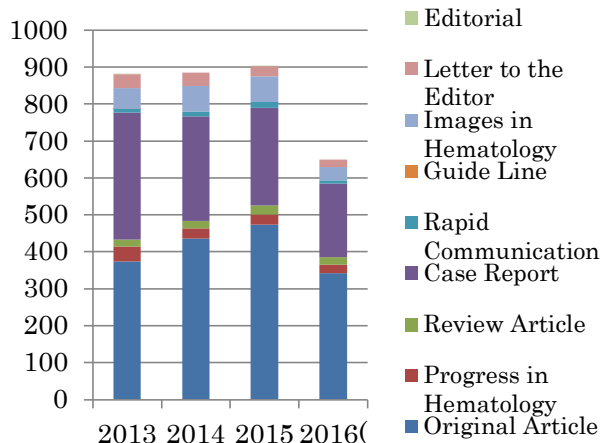
(EHA) Lucile Couronne (Department of Molecular Medicine, University of Pavia (Italy))

派遣先: 財団法人癌研究会 癌研究所 分子標的病理プロジェクト

地域別投稿数



論文種別投稿数

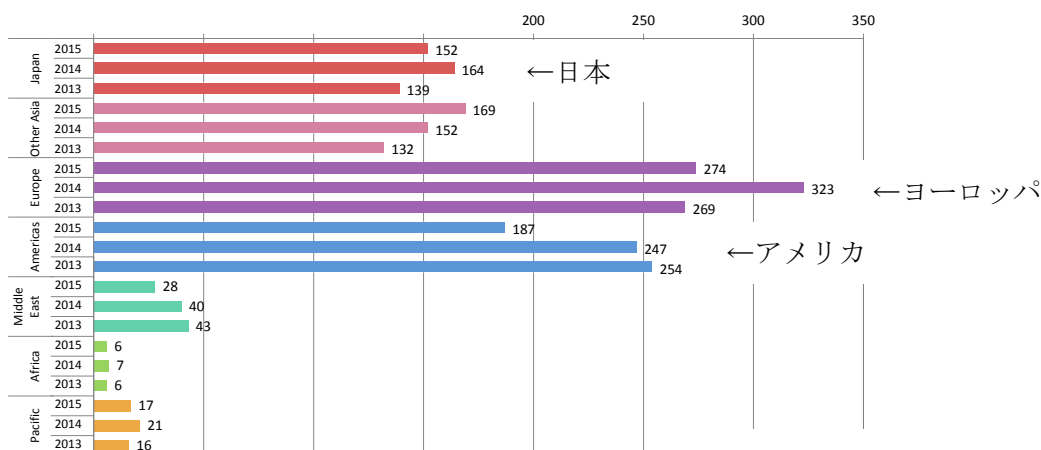


地域別受理率

投稿数：2013年881件, 2014年884件, 2015年904件, 2016年669件 (8/31現在)

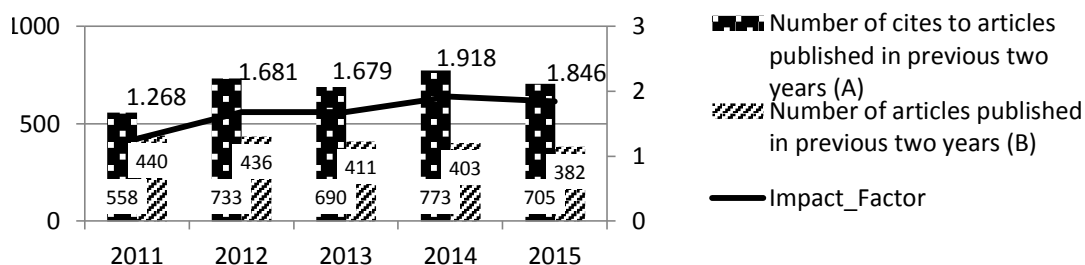
	2013年			2014年			2015年			2016年 (as of 31 Aug)		
	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate
Japan	121	108	52.8%	113	108	51.1%	113	125	47.5%	89	95	48.4%
Asia	54	253	17.6%	47	230	17.0%	33	280	10.5%	28	188	13.0%
Europe	28	78	26.4%	31	92	25.2%	22	90	19.6%	13	70	15.7%
Americas	24	65	27.0%	23	85	21.3%	17	66	20.5%	19	34	35.8%
Middle East	4	89	4.3%	10	92	9.8%	4	84	4.5%	3	58	4.9%
Africa	3	21	12.5%	1	40	2.4%	2	33	5.7%		23	0.0%
Pacific		6	0.0%	3	5	37.5%	2	3	40.0%	1	2	33.3%
Unkown		3	0.0%	1	4	20.0%		4	0.0%			
Total	234	623	27.3%	229	656	25.9%	193	685	22.0%	153	470	24.6%

2013-2015年に出版されたIJHの地域別引用状況 (2015)



(Source: Web of Science, as of June 20, 2016)

Impact Factor

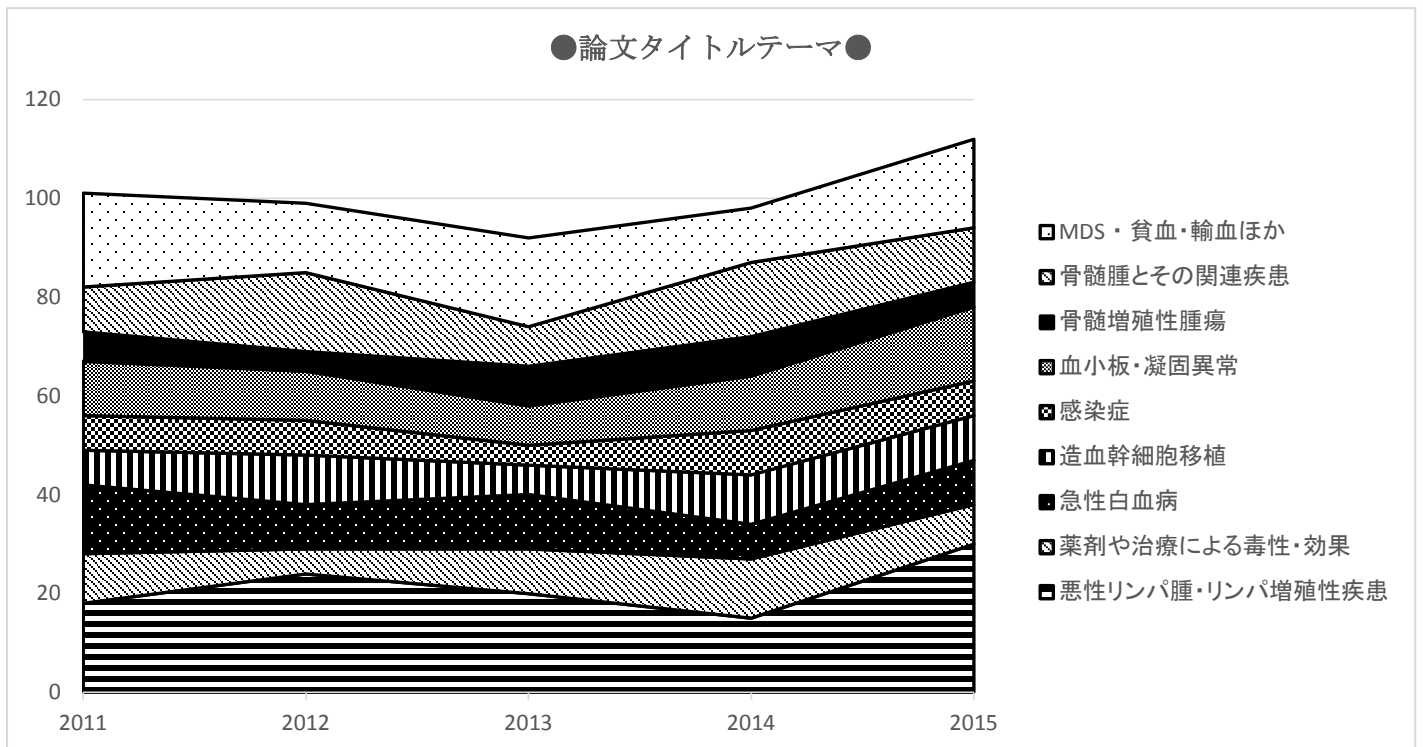


2015年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
56/1	98	0	1	0	5	5	11	
56/2	144	0	12	0	4	0	16	
56/3	114	0	8	0	4	1	13	
56/4	95	4	0	1	5	1	11	
56/5	121	2	0	1	6	1	10	
56/6	173	12	0	2	6	0	20	
56/7	186	9	6	2	4	2	23	
56/8	182	12	5	2	3	1	23	
56/9	744	第77回学術集会 プログラム・抄録号						
56/10	424	第77回学術集会 教育講演号(47本)						
56/11	132	3	0	1	7	0	11	
56/12	134	3	0	0	9	0	12	
計	2547	45	32	9	53	11	150	

2016年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
57/1	86	0	1	0	8	2	11	
57/2	140	0	10	1	3	0	14	
57/3	168	0	12	2	3	0	17	
57/4	128	6	0	0	9	1	16	
57/5	168	8	0	1	6	3	18	
57/6	146	6	0	0	6	1	13	
57/7	148	4	5	2	4	2	17	
57/8	142	8	0	1	7	0	16	
57/9		第78回学術集会 プログラム・抄録号						
57/10		第78回学術集会 教育講演号(57本)						
57/11		0	6	1	5	0	12	
57/12		0	5	2	5	0	12	
計		32	39	10	56	9	146	



●採用日数平均

●年度別採用率

巻	採用日数平均	年度	投稿数	採用数	採用率
53巻	128.4日				
54巻	98.7日	2013年	92	68	73.9%
55巻	81.8日	2014年	99	68	68.7%
		2015年	112	93	83.0%

《連載》

- Picture in Clinical Hematology
- Introduce My Article
- Be ambitious!
- Take Me Out to the Congress Abroad

診療

- 1) 内保連難易度調査
内保連で、内科系の技術について診療報酬増額を目指して内科系技術（病名診断と治療方針決定の2項目について）の難易度を分類することになり、血液関連領域を担当。
- 2) 厚労省への要望書提出
 - ・ FIP1L1-PDGFR α 融合遺伝子検出に係る体外診断用医薬品の保険導入について
 - ・ 非典型溶血性尿毒症症候群に対するエクリズマブ投与のDPC包括化対象外に関する要望書（4学会合同：日本腎臓学会・日本小児学会・日本血液学会・日本血栓止血学会）
 - ・ ATGAM（ウマ由来抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリン）の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」への申請
- 3) 医師会治験促進センター 学会推薦に関する審議
 - ・ 慢性活動性 Epstein-Barr ウイルス感染症（CAEBV）に対する治験候補薬「ルキシソリチニブ」の推薦を承認。
- 4) その他
 - ・ 血小板無力症と Bernard-Soulier 症候群の指定難病の追加疾患申請に関連した両疾患の診断基準案の検討
 - ・ 日本医師会・疑義解釈委員会からの供給停止予定品目についての確認
 - ・ 医薬品の早期承認についての学会要望書提出の基準について検討
 - ・ 医薬品副作用情報の学会ホームページでの紹介についての検討

造血器腫瘍ガイドライン

- ・ 「造血器腫瘍診療ガイドライン」第2版編集／出版準備

学術調査事業

学術・統計調査

新 TARGET

観察研究1

「日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成22年4月1日～平成25年3月31日

観察期間：平成30年3月31日まで

登録症例数：506例（予定登録数500例）（達成率101.2%）

主要評価項目：CML 確定診断日から5年時点における全生存率(OS)

観察研究2

「日本国内における2ndまたは3rd line イマチニブ既治療慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成22年4月1日～平成25年3月31日

登録症例数：98例（予定登録数110例）（達成率89.1%）

観察期間：平成28年3月31日まで

主要評価項目：2nd line 以降の薬剤投与開始日から3年時点における全生存率(OS)

今後の予定

- 1) 観察研究1の中間解析を論文化
筆頭著者：鈴木 律朗（島根大学）
- 2) 観察研究2の最終結果を集計し、論文化
筆頭著者：慶応義塾大学

多発性骨髄腫観察研究

「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究（JSH-MM-15）」

目的：日本における骨髄腫関連疾患の予後ならびに予後因子について調査すること

デザイン：前向きコホート研究

対象：2016年1月1日以降に、骨髄腫関連疾患のうちいずれかを新規に診断した患者。

目標症例数：1,100例

主な評価項目：

全生存率、無増悪生存率、Time to next treatment、Treatment Free Interval、奏効率

試験期間：登録期間 3 年（2016 年 5 月 1 日より開始）

観察期間：最終登録例の登録日から 3 年後まで

データセンター：特定非営利活動法人臨床研究支援機構 (OSCR)

研究代表者：名古屋市立大学 血液・腫瘍内科学分野 飯田 真介

骨髄増殖性腫瘍観察研究

「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究（JSH-MPN-15）」

目的：

わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、原発性骨髄線維症、本態性血小板血症の生存率、イベント発生率、およびその発 生に影響を及ぼすリスク因子、治療実態について調査をすること。

デザイン：多施設共同前向きコホート研究

対象：

WHO 分類 2018 年改訂案の診断基準に基づいて新たに MPN (PV、ET、PMF) と診断された患者

目標症例：1,500 例 (ET が 900 例、PV が 500 例、PMF が 100 例)

主要評価項目：全生存率

副次評価項目：血栓症・出血性イベントの発症、白血病への移行、二次性骨髄線維症への移行、真性多血症への移行、二次発がん、MPN-SAF TSS

検体保存：ゲノム DNA の保存

研究期間：

登録期間：5 年

観察期間：10 年（2031 年 3 月まで）

データセンター：特定非営利活動法人臨床研究支援機構 (OSCR)

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

進捗状況：新 WHO 分類 2016 に対応するため調整中でまもなく開始予定。

血液疾患登録事業について

1. データの二次利用希望があった際の手順

- 1) 研究申請者は学術・統計調査委員会に希望する研究についての概略を提出
- 2) 学術・統計調査委員会で学術的価値について審査
- 3) 学術・統計調査委員会で承認されれば倫理委員会で審査
- 4) 研究実施施設の倫理委員会の承認で承認されれば事務手続きを行う。
- 5) 学術・統計調査委員会で承認された研究テーマ、研究者などの全体像を把握するとともに各研究の進捗状況をチェックする。

2. データの二次利用

1) ATL 患者

実施予定の研究課題名：第 12 次 ATL 全国実態調査研究/ ATL に対する継続的な全国観察研究

研究母体名：厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合 研究事業（がん政策研究事業）H26-がん政策 一般-006「HTLV-1 キャリアと ATL 患者の実態把握、リスク評価、相談支援

体制整備と ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究」班

研究代表者：内丸 薫（東京大学医科学研究所附属病院 血液腫瘍内科）「ATL 診療実態の全国調査」小班班長

研究代表者名：塚崎邦弘

臨床研究審査委員会承認の有無、及び有の場合審査機関名：有、国立がん研究センター

2) 赤芽球癆患者

実施予定の研究課題名：後天性慢性赤芽球癆における免疫抑制療法と予後追跡調査

研究母体名：特発性造血障害班に関する調査研究班

研究代表者名：赤芽球癆領域代表・廣川 誠（秋田大学総合診療・検査診断学）
 特発性造血障害に関する調査研究班代表・荒井俊也（東京大学血液腫瘍内科学）
 臨床研究審査委員会承認の有無、及び有の場合審査機関名：有、秋田大学

3) キャスルマン病

データではなく登録施設、住所、施設代表者名のみデータを供与
 研究代表者名：慶應義塾大学：岡本 真一郎

3. 今後の予定

- 1) 現プロトコルの登録期間：2016年12月末まで ⇒ プロトコル改訂予定
- 2) 病名構造を改訂
- 3) データの二次利用の規約を作成
- 4) 疾患登録事業の結果を臨床血液に投稿

人材育成事業

専門医認定制度

- 1) 専門医等取得状況 平成28年7月末日現在

専門医	3,603名
指導医	1,671名
研修施設	493施設
- 2) 専門医認定試験

平成28年度（第26回）血液専門医認定試験

日時	平成28年6月26日（日）13:00～15:00
会場	東京国際フォーラム ホールB5（東京都）
受験者数	244名（欠席1名） 合格者207名 ・ 不合格者36名（合格率84.83%）
- 3) 新専門医制度対応WGにおいて、サブスペシャリティ領域のプログラム等を検討

教育

1. 第9回「研修医（初期・後期）のための血液学セミナー」開催について

開催形態：日本血液学会の主催として

日時：平成28年7月9日（土） - 7月10日（日）

* 7月8日（金）はサテライトプログラム+イブニングセミナー

会場：大津プリンスホテル

対象：研修医（前期、後期を含める）+オブザーバー

参加人員：114名（参加枠を20名増員）+16名、企業枠9名

講師・座長40名

講習時間・形態：第8回とほぼ同じ内容。

全体講義	：レクチャー2コマ、ケーススタディー5コマ
グループスタディー	：4コマ
モーニングレクチャー	：2コマ
ランチョンセミナー	：2コマ

申込総数 一般参加：180名、オブザーバー：9名、企業参加：9名

*第10回に向けて講師、グループ担当等の交代を進めている

*参加費用を27000円に増額

アンケート結果

一般参加	平均	89.6	点
オブザーバー	平均	90.8	点
企業参加			

2. 第6回若手臨床血液学セミナーへの協力

主催：協和発酵キリン株式会社、ノバルティスファーマ株式会社

日時：2016年11月12日（土）、13日（日）

会場：梅田スカイビル（大阪市北区大淀中1-1）

参加費：10,000円（交通・宿泊は自費）

参加人数：150名程度（内科100名+小児科50名）

＊会場の収容人数が許す限り参加を認める方針

講師：21名、検鏡実習講師：4名

全体講義として17コマ（小児は16コマ）

＊ 検鏡実習は希望者のみ。

＊ 募集期間2016年9月5日～9月16日

3. 新専門医制度への対応

内科サブスペシャリティーとしてのプログラム等の作成（専門医認定委員会との共同作業）

4. 研修医を対象とした血液学テキストの作製に関して

専門医認定委員会との共同作業

出版社（南江堂）との打ち合わせ中

普及啓発事業

広 報

1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行

① 平成28年度（平成27年9月～平成28年8月）の発行回数

定期便12回

臨時便22回：学術集会、JSH国際シンポジウム、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MM観察研究の登録開始、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、など

② 上記①以外のニュース便を配信

2015年10月：第3回定時社員総会のご案内（インターネットによる議決権行使）

③ 海外へのプロモーション

EHA, ASH Congressにて取得した海外研究者／関係者のEメールアドレス宛に、JSH国際シンポジウムや学術集会の案内を配信（2016年9月現在：1,893件）

➤ 2016年8月からメール配信ソフトを導入し、事務局にて会員に直接配信を開始。

➤ 配信数：テキスト版・HTML版を合わせ6,375件（2016年9月号での会員宛配信実数）。昨年配信数（6,233件）より142件増加。

➤ 日血ホームページにバックナンバーを掲載

トップ画面右 日血ニュース《メール便》<http://www.jshem.or.jp/nnews/index.html>

2) 日本血液学会ホームページ（HP）

・WEBセミナー：教育講演（第77回日本血液学会学術集会）のWEB版を会員専用ページに掲載（2016年3月号の日血ニュースで案内）

3) 日本血液学会HPサーバーの一元化について

① 学会サイトHP：一般向け情報発信、会員向け情報発信

② 学術集会HP：学術集会サイト、抄録検索システム、抄録アーカイブシステム
第79回学術集会（2017年）HPを作製中

③ 抄録アーカイブシステムが完成（9月公開）

第72回から第77回学術集会総会での抄録をデータベース化

④ HPのリニューアル

トップ画面デザイン、機能の改変：イメージ、ワイド画面、スクロールイメージ画像、画像の差し替え

⑤ コンテンツマネジメントシステムの導入

⑥ イベントカレンダー、専門医データベース

⑦ 国際シンポジウムHP、教育セミナーHPを1つのサーバーで管理。

賞 等

- 1) 奨励賞 (第 77 回日本血液学会学術集会発表) : 副賞各 30 万円
大島 基彦 (千葉大学 細胞分子医学)
Ezh2 による成体造血幹/前駆細胞における胎児期遺伝子群発現の制御
奥野 友介 (名古屋大学病院 先端医療・臨床研究支援センター)
先天性骨髄不全症の遺伝子診断におけるターゲットシーケンスの臨床的有用性
斎賀 真言 (東京大学医科学研究所 細胞療法)
SETBP1 遺伝子変異が ASXL1 変異 MDS を白血化するメカニズムの解明
櫻井 政寿 (慶應義塾大学 血液内科)
国際 PNH レジストリにおける日本人患者の臨床的特徴と QOL 評価
田所 優子 (金沢大学 がん進展制御研究所)
Spred1 は造血幹細胞の自己複製能を制御する
田中 庸一 (北里大学 薬学部 薬物治療学 IV)
日本人小児急性リンパ性白血病における NUDT15 および MRP4 多型の 6-メルカプトプリンによる治療経過への影響
蝶名林 和久 (京都大学 iPS 細胞研究所)
二次性急性骨髄性白血病患者由来 iPS 細胞からの生着可能な白血病幹細胞の産生
細川 健太郎 (九州大学 幹細胞再生修復医学分野)
造血幹細胞の老化制御に対するテロメア結合因子 Pot1 の機能解析
吉井 由美 (奈良県立医科大学 輸血部)
本邦における ADAMTS13 著減・後天性原発性 TTP247 例の臨床的特徴および予後についての解析
若橋 香奈子 (神戸大学 血液内科学)
ビタミン D3 刺激により造血幹細胞から強制分化した α SMA 陽性マクロファージが骨髄線維症/骨硬化症を惹起する
- 2) 白血病研究基金助成 (学会推薦)
田中 庸一 (北里大学 薬学部 薬物治療学 IV)
勝屋 弘雄 (福岡大学 腫瘍・血液・感染症内科)
- 3) 外郭団体各賞
 - ・学会からの推薦: 日本学術振興会賞、日本医師会医学研究奨励賞、文部科学大臣表彰科学技術賞
 - ・学会の推薦なし: 藤原賞、慶應医学賞、日本学術振興会育志賞、持田記念学術賞、朝日賞、
 - ・推薦候補募集中: イノベーター・オブ・ザ・イヤー

倫 理

- 1) 第 78 回日本血液学会学術集会より倫理チェック項目を導入
- 2) 学会の倫理審査委員会設置に向け、委員構成の検討 (外部委員の就任)
- 3) 日本医学会研究倫理教育研修会への参加
 - ・オーサーシップの問題点
 - ・診療ガイドライン作成委員の COI
 - ・産学連携の健全化: 臨床研究法
 - ・演題登録時の倫理チェックを検討

COI

- 1) COI 自己申告の実施
 - ・本学会主催の学術集会、講演会 (発表者全員)
 - ・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) などで発表を行う著者全員
 - ・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術講演会会長・次期会長、地方会学術集会会長・次期会長、各種委員会のすべての委員長、特定の委員会委員など
 - ※今年度から診療委員も対象とする
 - ※役員 COI 自己申告書について、COI 委員長並びに副委員長による調査を実施
 - ・日本内科学会 COI 指針・細則の改訂にともない、一部細則の改訂
- 2) 啓発活動、その他
 - ・学術集会における教育講演
 - ・日本医学会診療ガイドライン参加資格基準ガイダンス (案) 策定状況についての報告
 - ・臨床研究法案について